

06.10.2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application:

2003年10月 2日

REC'D 26 NOV 2004

WIPO PCT

出願番号
Application Number:

特願2003-344757

[ST. 10/C]: [JP2003-344757]

出願人
Applicant(s):

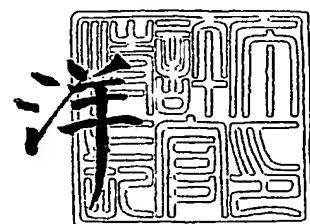
日産ディーゼル工業株式会社

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年11月11日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



【書類名】 特許願
【整理番号】 103-0378
【提出日】 平成15年10月 2日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 F01N 3/08
【発明者】
 【住所又は居所】 埼玉県上尾市大字壱丁目 1 番地 日産ディーゼル工業株式会社内
 【氏名】 上野 弘樹
【特許出願人】
 【識別番号】 000003908
 【氏名又は名称】 日産ディーゼル工業株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100078330
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 笹島 富二雄
 【電話番号】 03-3508-9577
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 009232
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 9712169

【書類名】特許請求の範囲**【請求項 1】**

エンジンの排気系に配設され、排氣中の窒素酸化物を還元剤により還元浄化する還元触媒と、

還元剤と共に圧縮空気が供給され該還元剤を霧化して、前記排気系の排気通路内にて前記還元触媒の排氣上流側に噴射供給する噴射ノズルを有する還元剤供給手段と、

前記噴射ノズルの排氣上流側の近傍に設けられ、排気通路内の排氣温度を検出する温度検出手段と、

を備えたエンジンの排氣浄化装置であって、

前記還元剤供給手段は、前記噴射ノズルの内部圧力を検出する圧力検出手段を備え、該噴射ノズルの内部圧力の検出信号を用いて、その圧力が所定値以上となったら噴射ノズルへの圧縮空気と還元剤の供給を停止し、前記温度検出手段からの排氣温度の検出信号を用いて、噴射ノズル近傍の排氣温度が還元剤の融点以上となったら噴射ノズルへ圧縮空気と還元剤の供給を再開させることを特徴とするエンジンの排氣浄化装置。

【請求項 2】

前記還元剤供給手段は、前記圧力検出手段からの噴射ノズルの内部圧力の検出信号を入力すると共に前記温度検出手段からの排氣温度の検出信号を入力し、噴射ノズルの内部圧力が所定値以上となったら噴射ノズルへの圧縮空気と還元剤の供給を停止し、噴射ノズル近傍の排氣温度が還元剤の融点以上となったら噴射ノズルへ圧縮空気と還元剤の供給を再開するように制御する制御回路を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載のエンジンの排氣浄化装置。

【請求項 3】

前記還元剤は、尿素水溶液であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のエンジンの排氣浄化装置。

【請求項 4】

前記噴射ノズルへ圧縮空気と還元剤の供給を再開する際における噴射ノズル近傍の排氣温度は、132℃以上であることを特徴とする請求項 3 に記載のエンジンの排氣浄化装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】エンジンの排気浄化装置

【技術分野】

【0001】

本発明は、移動車両搭載のディーゼルエンジン、ガソリンエンジン等から排出される窒素酸化物 (NO_x) を、還元剤を用いて還元除去する排気浄化装置に関し、特に、還元剤を還元触媒の排気上流側に供給する噴射ノズルの目詰まりが発生した際にその目詰まりを解消して NO_x の浄化処理の効率を向上するエンジンの排気浄化装置に係るものである。

【背景技術】

【0002】

エンジンから排出される排気中の微粒子物質 (PM) のうち、特に NO_x を除去して排気を浄化するシステムとして、いくつかの排気浄化装置が提案されている。この排気浄化装置は、エンジンの排気系に還元触媒を置き、該還元触媒の上流側の排気通路に還元剤を噴射供給することにより、排気中の NO_x と還元剤とを触媒還元反応させ、 NO_x を無害成分に浄化処理するものである。還元剤は貯蔵タンクに常温で液体状態に貯蔵され、必要量を噴射ノズルから噴射供給する。還元反応は、 NO_x との反応性の良いアンモニアを用いるもので、還元剤としては、加水分解してアンモニアを容易に発生する尿素水溶液、アンモニア水溶液、その他の還元剤水溶液が用いられる（例えば、特許文献1参照）。

【特許文献1】特開2000-27627号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかし、上記従来の排気浄化装置においては、エンジンの運転状態（排気温度や NO_x 排出量など）に応じて還元剤の供給量を制御するが、エンジンの運転状態によっては、排気通路内に設けられた噴射ノズルの噴射孔又はそれに至る通路が目詰まりを起こし、還元剤を十分に供給できなくなる場合がある。その結果、上記還元触媒上での NO_x の還元反応がスムーズに進行せず、 NO_x が排出される虞がある。

【0004】

上記噴射ノズルの目詰まりは、還元剤としての尿素水溶液（以下、「尿素水」という）中の尿素が噴射孔又はそれに至る通路内で結晶化して凝固したもの（以下、「固体尿素」という）が主な原因である。これは、尿素水は 100°C で結晶化するので、尿素水が 100°C 以上に加熱されると尿素結晶が発生するからである。しかし、固体尿素の融点は 132°C であるので、エンジンからの排気により噴射ノズル近傍の排気温度が上昇して該噴射ノズルへの入熱が増大すれば、上記固体尿素は融解してノズルの目詰まりは解消される。

【0005】

ところが、還元剤供給手段が、噴射ノズルに対して尿素水と共に圧縮空気を供給し該尿素水を霧化して噴射する、いわゆるエアアシストタイプの還元剤供給手段である場合は、噴射ノズルに常時供給される圧縮空気がノズル内部を冷却するため、ノズル内部の温度が 132°C 以上に上がりず、固体尿素の融解が妨げられる。したがって、上記噴射ノズルの内部に結晶化して凝固した固体尿素が付着して、ノズルが目詰まりを起こす虞がある。なお、この場合、噴射ノズル内部の温度を上げて固体尿素を融解させるために、排気通路内の排気温度を高くすることが考えられるが、これはエンジンにとって得策ではない。

【0006】

そこで、本発明は、このような問題点に対処し、還元剤を還元触媒の排気上流側に供給する噴射ノズルの目詰まりが発生した際に、排気通路内の排気温度が低くてもその目詰まりを解消して NO_x の浄化処理の効率を向上するエンジンの排気浄化装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1に記載の排気浄化装置では、エンジンの排気系に配設され、排気中の窒素酸化

物を還元剤により還元浄化する還元触媒と、還元剤と共に圧縮空気が供給され該還元剤を霧化して、前記排気系の排気通路内にて前記還元触媒の排気上流側に噴射供給する噴射ノズルを有する還元剤供給手段と、前記噴射ノズルの排気上流側の近傍に設けられ、排気通路内の排気温度を検出する温度検出手段と、を備えたエンジンの排気浄化装置であって、前記還元剤供給手段は、前記噴射ノズルの内部圧力を検出する圧力検出手段を備え、該噴射ノズルの内部圧力の検出信号を用いて、その圧力が所定値以上となったら噴射ノズルへの圧縮空気と還元剤の供給を停止し、前記温度検出手段からの排気温度の検出信号を用いて、噴射ノズル近傍の排気温度が還元剤の融点以上となったら噴射ノズルへ圧縮空気と還元剤の供給を再開させることを特徴とする。

【0008】

このような構成により、還元剤供給手段は、圧力検出手段で検出した噴射ノズルの内部圧力の検出信号を用いて、上記検出した圧力が所定値以上となったら噴射ノズルへの圧縮空気と還元剤の供給を停止し、温度検出手段からの排気温度の検出信号を用いて、噴射ノズル近傍の排気温度が還元剤の融点以上となったら噴射ノズルへ圧縮空気と還元剤の供給を再開させる。これにより、ノズル内部の冷却を抑え、排気通路内の排気温度で噴射ノズルの目詰まりを解消する。

【0009】

請求項2に記載の発明では、前記還元剤供給手段は、前記圧力検出手段からの噴射ノズルの内部圧力の検出信号を入力すると共に前記温度検出手段からの排気温度の検出信号を入力し、噴射ノズルの内部圧力が所定値以上となったら噴射ノズルへの圧縮空気と還元剤の供給を停止し、噴射ノズル近傍の排気温度が還元剤の融点以上となったら噴射ノズルへ圧縮空気と還元剤の供給を再開するように制御する制御回路を備えたことを特徴とする。これにより、還元剤供給手段に備えられた制御回路で、圧力検出手段からの噴射ノズルの内部圧力の検出信号を入力すると共に前記温度検出手段からの排気温度の検出信号を入力し、噴射ノズルの内部圧力が所定値以上となったら噴射ノズルへの圧縮空気と還元剤の供給を停止し、噴射ノズル近傍の排気温度が還元剤の融点以上となったら噴射ノズルへ圧縮空気と還元剤の供給を再開するように制御する。

【0010】

請求項3に記載の発明では、前記還元剤は、尿素水溶液であることを特徴とする。これにより、加水分解してアンモニアを容易に発生する尿素水溶液を還元剤として、排気中の窒素酸化物を還元浄化する。

【0011】

請求項4に記載の発明では、前記噴射ノズルへ圧縮空気と還元剤の供給を再開する際ににおける噴射ノズル近傍の排気温度は、132℃以上であることを特徴とする。これにより、噴射ノズルの内部を、尿素水溶液中の尿素の融点以上の温度まで加熱する。

【発明の効果】

【0012】

請求項1に係る発明によれば、噴射ノズルが目詰まりを起こしたと判断した場合は、該噴射ノズルへの圧縮空気と還元剤の供給を停止してノズル内部の冷却を抑え、この状態で排気通路内の排気による加熱でノズル内部の還元剤が融解したと判断した場合は、該噴射ノズルへ圧縮空気と還元剤の供給を再開させることができる。これにより、噴射ノズルの目詰まりが発生した際に、排気通路内の排気温度が低くてもその目詰まりを解消することができる。したがって、NO_xの浄化処理の効率を向上することができる。

【0013】

また、請求項2に係る発明によれば、還元剤供給手段に備えられた制御回路により、噴射ノズルの内部圧力が所定値以上となったら噴射ノズルが目詰まりを起こしたと判断して、噴射ノズルへの圧縮空気と還元剤の供給を停止し、噴射ノズル近傍の排気温度が還元剤の融点以上となったらその排気による加熱でノズル内部の還元剤が融解したと判断して、噴射ノズルへ圧縮空気と還元剤の供給を再開するように制御することができる。これにより、噴射ノズルの目詰まりが発生した際に、排気通路内の排気温度が低くてもその目詰ま

りを解消することができ、NO_xの浄化処理の効率を向上することができる。

【0014】

さらに、請求項3に係る発明によれば、還元剤としてアンモニアを直接使用することなく、加水分解してアンモニアを容易に発生する尿素水溶液を使用することで、排気中のNO_xを無害成分に転化して、NO_xの浄化処理の効率を向上することができる。

【0015】

さらにまた、請求項4に係る発明によれば、エンジンからの排気を利用して噴射ノズルの内部を尿素の融点以上に加熱することができ、ノズル内部の固体尿素を融解して該噴射ノズルの目詰まりを解消することができる。これにより、NO_xの浄化処理の効率を向上することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0016】

以下、本発明の実施形態を添付図面に基づいて詳細に説明する。

【0017】

図1は本発明によるエンジンの排気浄化装置の実施形態を示す図である。この排気浄化装置は、移動車両搭載のディーゼルエンジン、ガソリンエンジン等から排出されるNO_xを、還元剤を用いて還元除去するものである。ガソリンあるいは軽油を燃料とするエンジン1の排気は、排気マニホールド2からNO_xの還元触媒3が配設された排気管4を経由して大気中に排出される。詳細には、排気通路としての排気管4には排気上流側から順に、一酸化窒素(NO)の酸化触媒、NO_xの還元触媒、アンモニア酸化触媒の3つの触媒が配設され、その前後に温度センサ、NO_xセンサ等が配設されて排気系が構成されるが、細部の構成は図示していない。

【0018】

上記NO_xの還元触媒3は、排気管4内を通る排気中のNO_xを還元剤により還元浄化するもので、セラミックのコーディライトやFe-Cr-Al系の耐熱鋼から成るハニカム形状の横断面を有するモノリスタイプの触媒担体に、例えばゼオライト系の活性成分が担持されている。そして、上記触媒担体に担持された活性成分は、還元剤の供給を受けて活性化し、NO_xを効果的に無害物質に浄化させる。

【0019】

上記排気管4の内部にてNO_xの還元触媒3の排気上流側には、噴射ノズル5が配設されている。この噴射ノズル5は、還元剤を上記NO_xの還元触媒3の排気上流側に供給するもので、還元剤供給装置6を介して還元剤と共に圧縮空気が供給され、該還元剤を霧化して噴射供給するようになっている。このような装置は、エアアシストタイプと呼ばれている。ここで、噴射ノズル5は、排気管4内にて排気の流れ方向Aと略平行に下流側に向けて配設され、或いは適宜の角度で斜めに傾斜して配設されている。また、還元剤供給装置6には、貯蔵タンク7内に貯留された還元剤が供給配管8を通じて供給される。そして、上記噴射ノズル5と還元剤供給装置6とで、還元剤をNO_xの還元触媒3の排気上流側に供給する還元剤供給手段を構成している。

【0020】

この実施形態では、上記噴射ノズル5で噴射供給する還元剤として尿素水溶液(尿素水)を用いる。他にアンモニア水溶液等を用いてもよい。そして、噴射ノズル5で噴射供給された尿素水は、排気管4内の排気熱により加水分解してアンモニアを容易に発生する。得られたアンモニアは、NO_xの還元触媒3において排気中のNO_xと反応し、水及び無害なガスに浄化される。尿素水は、固体もしくは粉体の尿素の水溶液で、貯蔵タンク7に貯留されており、供給配管8を通じて還元剤供給装置6に供給されるようになっている。

【0021】

上記排気管4の内部にて噴射ノズル5の排気上流側の近傍には、排気温度センサ9が設けられている。この排気温度センサ9は、排気管4内の排気温度を検出する温度検出手段となるものであり、この実施形態では上記噴射ノズル5の排気上流側近傍の排気温度を検出するようになっている。そして、この排気温度センサ9で検出した排気温度の検出信号

は、還元剤供給装置6に送られるようになっている。

【0022】

上記還元剤供給装置6は、前述のようにエアアシストタイプと呼ばれるもので、図2に示すように、図1に示す貯蔵タンク7からの供給配管8の途中に設けられ尿素水の圧力を上げる昇圧ポンプ10と、この昇圧ポンプ10の下流側に設けられ尿素水の通路を開閉する供給バルブ11と、図示省略の圧縮空気源からのエア供給配管12の途中に設けられ圧縮空気の通路を開閉するエア供給バルブ13とを備えて成る。

【0023】

ここで、本発明においては、上記還元剤供給装置6の内部に、圧力センサ15を備え、さらに還元剤供給制御回路14を備えている。圧力センサ15は、上記噴射ノズル5の内部圧力を検出する圧力検出手段となるもので、例えば圧縮空気と尿素水を噴射ノズル5へ供給する共通配管16の途中に設けられ、この共通配管16の内部圧力を検出して噴射ノズル5の内部圧を取り出している。

【0024】

そして、上記還元剤供給装置6は、前記圧力センサ15で検出した噴射ノズル5の内部圧力の検出信号S₂を用いて、その圧力が所定値以上となったら噴射ノズル5への圧縮空気と尿素水の供給を停止し、前記排気温度センサ9からの排気温度の検出信号S₁を用いて、噴射ノズル5近傍の排気温度が尿素水の融点(132℃)以上となったら噴射ノズル5へ圧縮空気と尿素水の供給を再開させるように構成されている。

【0025】

また、上記還元剤供給制御回路14は、前記圧力センサ15からの噴射ノズル5の内部圧力の検出信号S₂を入力すると共に前記排気温度センサ9からの排気温度の検出信号S₁を入力し、噴射ノズル5の内部圧力が所定値以上となったら噴射ノズル5への圧縮空気と尿素水の供給を停止し、噴射ノズル5近傍の排気温度が尿素水の融点(132℃)以上となったら噴射ノズル5へ圧縮空気と尿素水の供給を再開するように制御するもので、例えば制御用マイクロコンピュータ(MPU)から成り、その制御された供給タイミングに応じて、上記昇圧ポンプ10及び供給バルブ11並びにエア供給バルブ13に制御信号を送り、噴射ノズル5に対する圧縮空気及び尿素水の供給停止及び再開を制御するようになっている。

【0026】

次に、このように構成された排気浄化装置の動作について、図2及び図3を参照して説明する。まず、図1において、エンジン1の運転による排気は、排気マニホールド2から排気管4を経由して、該排気管4内の途中に配設されたNO_xの還元触媒3を通り、排気管4の端部排出口から大気中に排出される。このとき、上記排気管4の内部にてNO_xの還元触媒3の排気上流側に配設された噴射ノズル5から尿素水が噴射される。この噴射ノズル5には、尿素水の貯蔵タンク7から供給配管8を介して尿素水が還元剤供給装置6に供給された後、この還元剤供給装置6の動作により圧縮空気と共に尿素水が供給され、該噴射ノズル5は尿素水を霧化して噴射供給する。

【0027】

この状態で、図2において、上記噴射ノズル5の排気上流側の近傍に設けられた排気温度センサ9により排気管4内の排気温度を検出して、その検出信号S₁が還元剤供給装置6の還元剤供給制御回路14へ送られる。また、噴射ノズル5への共通配管16の途中に設けられた圧力センサ15により該噴射ノズル5の内部圧力を検出して、その検出信号S₂が同じく還元剤供給制御回路14へ送られる。

【0028】

まず、還元剤供給制御回路14は、上記圧力センサ15からの検出信号S₂を用いて、噴射ノズル5の内部圧力(以下、「ノズル内圧」と略称する)をモニタし、所定圧P₁以上か否かを判断する(図3のステップS1)。この場合、噴射ノズル5が目詰まりを起こると、エア供給配管12からの圧縮空気の供給によりノズル内圧が上昇することから、上記所定圧P₁を目詰まりが発生した際の圧力に設定しておくことにより、ノズル内圧の上

昇でノズルの目詰まりを判断できる。いま、ノズル内圧が所定圧 P_1 未満の場合は、ノズル目詰まりが発生していないと判断して、ステップS 1は“NO”側に進んでそのままノズル内圧を監視する。

【0029】

その後、ノズル内圧が所定圧 P_1 以上になった場合は、ステップS 1は“YES”側に進んで、ステップS 2に入る。ここでは、ノズル内圧が所定圧 P_1 以上の状態が継続する時間をカウントする。そして、所定圧 P_1 以上の状態の継続時間が所定時間 t_1 以上か否かを判断する（ステップS 3）。これは、圧力センサ15の誤差又は誤動作等を排除して装置の信頼性を向上するため、ノズル内圧が所定圧 P_1 以上の状態が所定時間 t_1 として設定された値以上に継続して初めてノズル目詰まりが発生したと判断するためである。いま、継続時間が所定時間 t_1 未満の場合は、ノズル目詰まりが発生していないと判断して、ステップS 3は“NO”側に進んでステップS 4に入る。そして、再度ノズル内圧が所定圧 P_1 以上か否かを判断し、“YES”側に進んで継続時間を監視する。

【0030】

その後、継続時間が所定時間 t_1 以上になった場合は、噴射ノズル5に目詰まりが発生したと判断して、ステップS 3は“YES”側に進んで、ステップS 5に入る。ここでは、図2に示すエア供給バルブ13及び供給バルブ11を閉じて、噴射ノズル5に対する圧縮空気の供給及び尿素水の供給を停止する。これにより、上記噴射ノズル5の内部が圧縮空気と尿素水で冷却されるのを抑え、排気管4内を流れる排気により加熱され、ノズル内部で凝固した固体尿素の融解を進行させる。

【0031】

そして、図2に示す排気温度センサ9からの検出信号S1を用いて、噴射ノズル5近傍の排気温度（以下、「ノズル近傍温度」と略称する）をモニタし、所定温度 T_1 以上か否かを判断する（ステップS 6）。この場合、固体尿素の融点は132℃であるので、 T_1 を132℃以上に設定しておくことにより、上記噴射ノズル5内の固体尿素を融解させることができる。いま、ノズル近傍温度が所定温度 T_1 未満の場合は、固体尿素を融解できないと判断して、ステップS 6は“NO”側に進んでそのままノズル近傍温度を監視する。

【0032】

その後、ノズル近傍温度が所定温度 T_1 以上になった場合は、ステップS 6は“YES”側に進んで、ステップS 7に入る。ここでは、ノズル近傍温度が所定温度 T_1 以上の状態が継続する時間をカウントする。そして、所定温度 T_1 以上の状態の継続時間が所定時間 t_2 以上か否かを判断する（ステップS 8）。これは、排気温度センサ9の誤差又は誤動作等を排除して装置の信頼性を向上するため、ノズル近傍温度が所定温度 T_1 以上の状態が所定時間 t_2 として設定された値以上に継続して初めて固体尿素が融解したと判断するためである。いま、継続時間が所定時間 t_2 未満の場合は、固体尿素が融解していないと判断して、ステップS 8は“NO”側に進んでステップS 9に入る。そして、再度ノズル近傍温度が所定温度 T_1 以上か否かを判断し、“YES”側に進んで継続時間を監視する。

【0033】

その後、継続時間が所定時間 t_2 以上になった場合は、噴射ノズル5内の固体尿素が融解したと判断して、ステップS 8は“YES”側に進んで、ステップS 10に入る。ここでは、図2に示すエア供給バルブ13を開いて、噴射ノズル5に対する圧縮空気の供給を再開する。

【0034】

そして、ノズル内圧が他の所定圧 P_2 以下か否かを判断する（ステップS 11）。この場合、噴射ノズル5内の固体尿素が融解すれば、エア供給配管12から圧縮空気を供給してもノズル内圧が一定圧より上昇することはないから、上記所定圧 P_2 を目詰まりが発生していない状態のノズル内圧に設定しておくことにより、ノズル内圧の低下でノズル目詰まりの解消を判断できる。いま、ノズル内圧が所定圧 P_2 以下となった場合は、固体尿素の融解によりノズル目詰まりが解消したと判断して、ステップS 11は“YES”側に進んで、ステップS 12に入る。ここでは、図2に示す供給バルブ11を開いて、噴射ノズル

5に対する尿素水の供給を再開する。これにより、噴射ノズル5は、ノズル目詰まりのない正常状態に復帰する。

【0035】

一方、ノズル内圧が他の所定圧 P_2 より高い場合は、固体尿素はまだ融解せずノズル目詰まりが解消していないと判断して、ステップS11は“NO”側に進んで、ステップS13で繰り返し回数 N_i のカウンタを“1”ずつインクリメントし、ステップS14で繰り返し回数 N_i が予め定められた規定回数以内であることを判断して、前述のステップS5に戻る。そして、再び噴射ノズル5に対する圧縮空気の供給及び尿素水の供給を停止し、上述の各ステップを繰り返してノズル目詰まりの解消の動作を、規定回数だけ行う。

【0036】

このとき、ステップS14において、繰り返し回数 N_i が規定回数を超えた場合は、“NO”側に進んで、エラー出力処理を行い（ステップS15）、尿素水の供給系を停止し（ステップS16）、動作を終了する。これにより、噴射ノズル5に対する圧縮空気の供給及び尿素水の供給を停止して、ノズル内部が冷却されるのを抑え、排気管4内を流れる排気により噴射ノズル5を加熱して、ノズル内部で凝固した固体尿素を融解してノズル目詰まりを解消できる。したがって、排気管4内の排気温度が低くても、噴射ノズル5の目詰まりを解消して NO_x の浄化処理の効率を向上することができる。

【0037】

その後、エンジン1の運転停止により、噴射ノズル5からの尿素水の噴射を終了するには、還元剤供給装置6の動作により、まず貯蔵タンク7からの尿素水の供給を遮断し、その後しばらくは噴射ノズル5に圧縮空気だけを供給する。これにより、噴射ノズル5の噴射孔又はそれに至る通路から尿素水を追い出して、尿素水の噴射を終了する。このように、噴射ノズル5から尿素水を追い出すことで、噴射ノズル5に対する尿素水の供給停止時における尿素水の残留又はいわゆる「後ダレ」が発生せず、噴射孔又はそれに至る通路内で尿素水が結晶化して目詰まりを起こすのを防止することができる。

【0038】

なお、図2においては、還元剤供給装置6内の圧力センサ15は、圧縮空気と尿素水を噴射ノズル5へ供給する共通配管16の途中に設けたものとしたが、本発明はこれに限られず、噴射ノズル5の内部に配設して、該噴射ノズル5の内部圧力を直接検出するようにしてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0039】

【図1】本発明によるエンジンの排気浄化装置の実施形態を示す概念図である。

【図2】上記排気浄化装置における還元剤供給装置及び噴射ノズルの構成及び動作を説明するための概要図である。

【図3】上記排気浄化装置の動作を説明するためのフローチャートである。

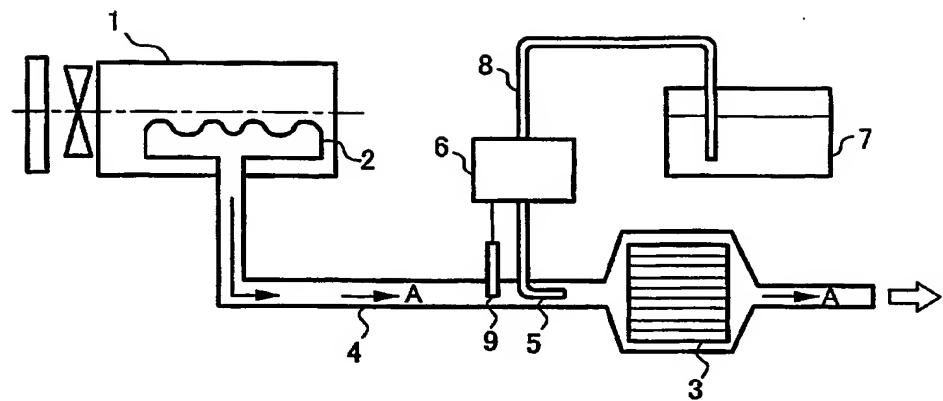
【符号の説明】

【0040】

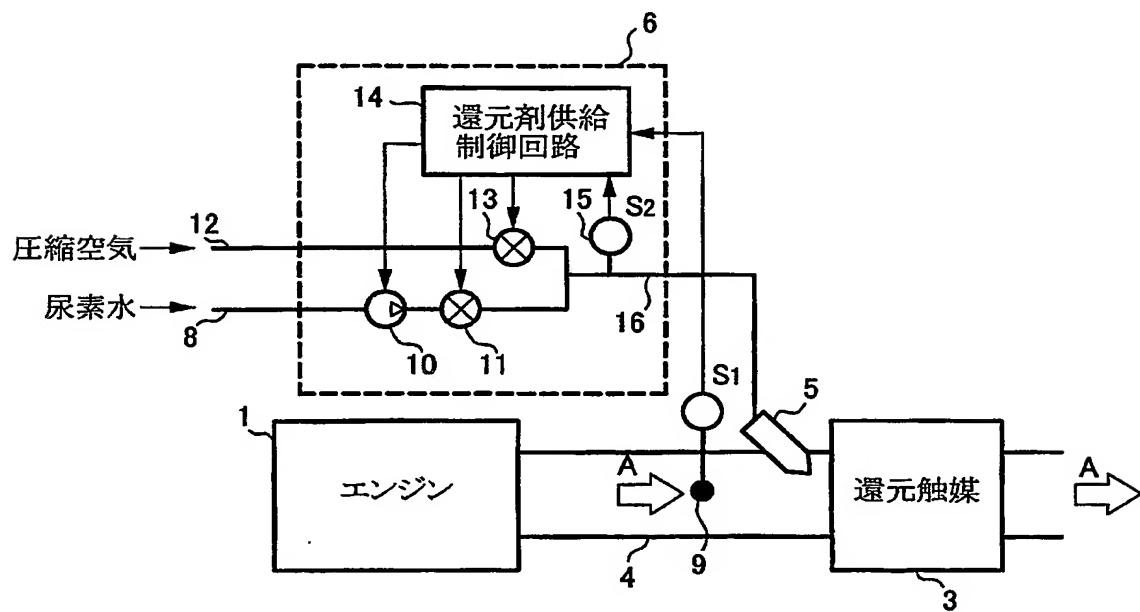
- 1 … エンジン
- 3 … 還元触媒
- 4 … 排気管
- 5 … 噴射ノズル
- 6 … 還元剤供給装置
- 7 … 貯蔵タンク
- 8 … 供給配管
- 9 … 排気温度センサ
- 1 1 … 尿素水の供給バルブ
- 1 3 … エア供給バルブ
- 1 4 … 還元剤供給制御回路
- 1 5 … 圧力センサ

16…共通配管

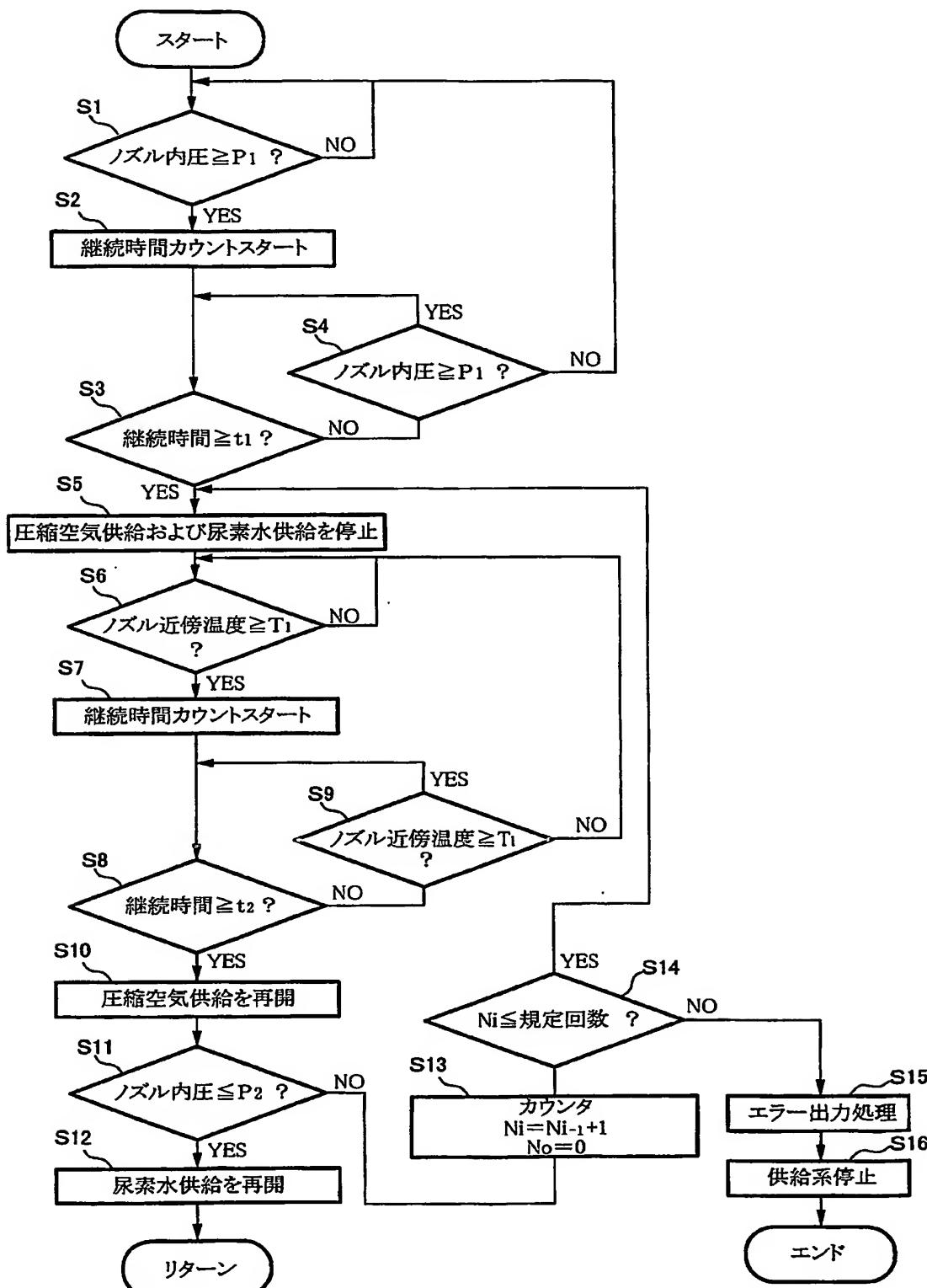
【書類名】図面
【図 1】



【図 2】



【図3】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 還元剤を還元触媒の排気上流側に供給する噴射ノズルの目詰まりが発生した際に、その目詰まりを解消してNO_xの浄化処理の効率を向上する。

【解決手段】 還元剤供給装置6は、圧力センサ15で検出した噴射ノズル5の内部圧力の検出信号を用いて、上記検出した圧力が所定値以上となったら、噴射ノズル5が目詰まりを起こしたと判断し、噴射ノズル5への圧縮空気と尿素水の供給を停止してノズル内部の冷却を抑え、排気温度センサ9からの排気温度の検出信号を用いて、噴射ノズル5近傍の排気温度が尿素水の融点以上となったら、ノズル内部の尿素が融解したと判断し、噴射ノズル5へ圧縮空気と尿素水の供給を再開させる。これにより、噴射ノズル5の目詰まりが発生した際に、排気管4内の排気温度が低くてもその目詰まりを解消することができる。したがって、NO_xの浄化処理の効率を向上することができる。

【選択図】 図2

特願 2003-344757

出願人履歴情報

識別番号 [000003908]

1. 変更年月日 1990年 8月20日

[変更理由] 新規登録

住所 埼玉県上尾市大字壱丁目1番地
氏名 日産ディーゼル工業株式会社